

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-59C	16-018	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Alcohol consumption and colon cancer prognosis among participants in north central cancer treatment group phase III trial N0147. 飲酒量と大腸癌予後、中央北部がん治療グループ患者における第3相試験 N0147		
執筆者		
Phipps AI, Shi Q, Limburg PJ, Nelson GD, Sargent DJ, Sinicrope FA, Chan E, Gill S, Goldberg RM, Kahlenberg M, Nair S, Shields AF, Newcomb PA, Alberts SR; Alliance for Clinical Trials in Oncology.		
掲載誌		
Int J Cancer. 2016 Sep 1;139(5):986-95. doi: 10.1002/ijc.30135.		
キーワード		PMID
アルコール、大腸癌、再発、赤ワイン、生存、予後		27060850
要 旨		
目的： 飲酒は大腸癌リスクの軽度の上昇と関連するが、大腸癌予後との関連は明らかではない。ランダム化された補助治療の第3相試験のデータを用いて、飲酒量と大腸癌予後との関連を評価した。		
方法： 患者 (N=1,984 人) は危険因子に関する質問票に答えた後 FOLFOX 療法 (フロオロウラシル、アイソボリン、オキサリプラチンの併用療法) あるいは FOLFOX+セツキシマブ療法にランダム化された。質問票は喫煙、運動、飲酒量や酒種を含む生活習慣に関するものであった。無病生存率 (DFS)、再発までの期間 (TTR)、全生存率 (OS) をアウトカムとして、飲酒量との関連を評価した。統計解析は Cox モデルを用い、年齢、性別、研究方法、BMI、喫煙、運動、全身状態で調整した。		
結果： 過去飲酒、非飲酒者の間にはアウトカムの統計学的な差は認めなかった (ハザード比 (HR)DFS=0.86, HRTTR=0.87, HROS=0.86, p 値 0.11-0.17)。しかし酒種を考慮すると、赤ワイン過去飲酒者 (n=628) は非飲酒者よりも有意にアウトカムがよかった (HRDFS=0.80, HRTTR=0.81, HROS=0.78, p 値 0.01-0.02)。赤ワインを 1~30 杯/月を飲酒した人 (n=601, HR=0.80-0.83, p 値 0.03-0.049) でアウトカムがよく、赤ワインを 30 杯以上/月で飲酒した人 (n=27, HR=0.33-0.38, p 値 0.05-0.06) ではより好ましいアウトカムが示唆された。ビールや蒸留酒の飲酒量はアウトカムと関連しなかった。		
結論： ステージⅢの大腸癌の患者において、飲酒量は大腸癌の予後と関連しなかったが、少量あるいは適量の赤ワインの飲酒は OS、DFS、TTR の延長との関連が示唆された。		